

早期退職し夢の古民家暮らし もっと早く移住すればよかった

築180年以上の古民家を改装した民泊「門前庵」を営む藤本雅也さんは、会社を早期退職し多可町に移住。転勤が多く、九州や静岡などで暮らした。各地それぞれ魅力はあったものの「孫にすぐ会いに行ける場所」かつ、妻の由美子さんの希望である「ハーブの地植えができる場所」を探し、さまざまな縁でこの地へ。移住の際は古民家再生促進支援事業を利用した。古民家暮らしに長年憧れはあったが、仕事や子育てのことも考えると踏み切れなかったという。「今実際に暮らしてみても思うのは、この地で子育てをしたかったということ。もっと早く移住に踏み切れればよかった」と藤本さん。集落の老家だった建物には、親族が集まるための来客用の布団や冠婚葬祭の食器が大量にあった。それらを片付けつつ建物を修復し、畑仕事もしながら、来客を受け入れ、古民家暮らしや移住についてのリアルな体験を伝えている。

移住の体験談
お話しします！



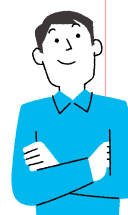
左) ステーキを焼くのに使う朴葉も裏の山でとれる。左下) 堀りごたつを囲炉裏に改装。囲炉裏の間のほか、和室や洋室がある。右) かまどで炊飯。夫婦ふたりで協力しながら暮らす。

ひょうごに
住む

Live

古民家再生、空き家活用 制度を上手に使う 移住の助けに

県外から県内へ。県内から県内へ。兵庫への移住を決める人たちは、それぞれさまざまな理由や事情があります。状況にあった支援制度を上手に利用して、移住の夢を実現した2組にお話を伺いました。



Column

さまざまな 移住支援制度

地域の大工・建築士等による古民家再生を支援する「古民家再生促進支援事業」。そして空き家を住宅、事業所や地域交流拠点として活用するために改修する際の工事費の一部を助成する「空き家活用支援事業」など。今ある建物を有効活用し、移住や起業に役立つ制度を用意。

定食とおやつを
用意しています

六甲の人気食堂が黒田庄へ 職住一致で生活も楽に

六甲で人気の飲食店「かもめ食堂」を営んでいた船橋律子さんと窪田靖子さん。2008年にお店を始めてから生活の中心はずっと仕事で寝る時間もない程だった。体調も崩し早く生活を変えなければと急いで移住先を探した。以前から自然豊かな場所への憧れがあり四国も検討したが、ふたりの実家はともに兵庫県内。何かあったらすぐ帰れる場所がいいと、県内で物件を探した。コロナ禍で休業要請があっても家賃が無駄にならないよう自宅兼店舗にできる物件を求めるうち西脇市黒田庄へ。西脇市の職員から改装費用の助成が出る「空き家活用支援事業」を聞き活用。「来てみたらすごくいい里山でした。町はものがあふれているけど、買わないと何もない。ここは野菜も水もある」と船橋さん。惣菜が買えると嬉しいというまわりの生産者の声を聞き、今後は「人を雇ってお惣菜づくりができれば」と新しい展開も視野に入れている。



左) 昭和後期に建てられた民家をリノベーションし、自宅兼店舗に。右上) 地元の野菜を使った定食を提供。下) 「かもめ食堂」の窪田靖子さん(左)と船橋律子さん(右)。

SDGs

ひょうごの
取り組み事例

地域の魅力を現地で体感！

未来へ繋げる 郷土の産業と暮らし

2025年大阪・関西万博に合わせて、兵庫県では県全体をパビリオンに見立てて発信する「ひょうごフィールドパビリオン」を展開します。「SDGs体験型地域プログラム」に応募し、認定された4つの団体の取り組みや地域への思いを紹介します。



「ひょうごフィールドパビリオン」および「SDGs体験型地域プログラム」とは？

持続可能でよりよい社会の実現には、世界共通の目標であるSDGsの視点が重要です。

兵庫では、歴史も風土も異なる個性豊かな五国において、地域の人々が主体的に課題解決に挑み、未来を切り拓いてきました。「震災からの創造的復興」「人と環境にやさしい循環型農業」「豊穡な大地や海にはぐくまれた食材」「挑戦を繰り返してきた地場産業」「郷土の自然と暮らしの中で受け継がれてきた芸術文化」など、地域を豊かにする取り組みには、世界が持続可

能な発展を遂げていくための多くのヒントが秘められています。

2025年「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催される大阪・関西万博を舞台に、こうした兵庫の取り組みを国内外に発信します。

「ひょうごフィールドパビリオン」は、地域の「活動の現場そのもの（フィールド）」を、地域の方々が主体となって発信し、多くの人に来て、見て、学び、体験していただく取り組みです。「ひょうごフィールドパビリオン」を展開するにあたり、それを構成する「SDGs体験型地域プログラム」を募集。第一次認定として113件のプログラムが認定されました。

※プログラムは万博開始まで随時募集。

Our Field, Our SDGs



「豊岡鞆」の技術を活かした 鞆・革小物づくりを体験

豊岡鞆

柳行李の時代から鞆作りが盛んな豊岡。かつては多くの製品がブランドのOEMで豊岡という地名は表に出なかった。2000年代に入ると鞆の生産が海外に移り、苦しい時代を迎える。2006年に商標法が改正され、「豊岡鞆」は地域団体商標として工業製品の第一号に認定、地域ブランドの先駆者としてさまざまな取り組みを実践。PRの予算が取れない中、全国の百貨店をまわり、SDGsという言葉が生まれる前から革の端材を利用したワークショップを重ねた。次世代に地場産業を伝えるために地元の小学6年生に卒業祝いとして革の小物を贈る。また、SDGsへの取り組みとしてワインの搾りかすや茶殻でなめした革を使うなどサステナブルな鞆作りも続けている。万博期間中は鞆の端材の革を使った小物作りプログラムを予定。「鞆作りを体感してもらえれば」（足立さん）。

写真左上) 写真撮影やイベントで大活躍する 鞆型の顔出しパネル。右上) 拠点施設「トヨオカカバンアルチザンアベニュー」。下) 豊岡まちづくり株式会社代表取締役の足立哲宏さん(左)と天野実さん(右)。



カバンストリート
で待ってます



淡路島香る



兵庫県 線香協同組合

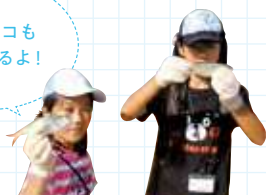
淡路島の西海岸、江井浦は170年余り続くお線香づくりのまち。昔ながらの佇まいを残す集落には線香工房が寄り集まり、香木の香りがまちに漂っている。廻船業で栄える港だったが、浦人の暮らしをより豊かにと泉州堺で製造技術を学び、線香づくりが始まった。船乗りや漁師、農家の副業として地域の暮らしに溶け込み、戦後には日本一の生産高を誇るまでに成長した。近年、日々線香をお供えする習慣がなくなりつつあり、次世代への産地承継が課題。「生産者として良いものづくりを追求してきたが、香りの体験をととして地域の魅力を世界中へ発信していきたい」と兵庫県線香協同組合の谷口さん。プログラムでは線香工房の見学や本格的な線香作り体験を開催予定。体験用の1/1000スケール線香押出機の製作は、地元の洲本実業高校が手がける。島全体の取り組みへと夢は広がる。

写真上) 環境省かおり 風景100選に選ばれた江井のまち。
左下) 兵庫県線香協同組合事務局長の谷口太郎さん。
右下) 各工房の秘伝が多彩な香りを生み出す。



魚やタコも
さわれるよ!

煙の立ち方にも
こだわりが!



家島の暮らしを知る

まち歩き・体験プログラム



家島諸島都市漁村交流推進協議会

家島でガイドを務める中西和也さんは大阪出身。大学では建築を学んだが、これから人口が減る中、新しい建物を建てるのではなく、今あるものを転用して使うべきではと、中山間地域や離島に着目。採石海運業で栄えた家島に惹かれて2011年に移住した。プログラムの核はまち歩き。中西さんが実際に感じた島の暮らしの魅力を伝える。さらに釣り体験やカヌー体験、アーティストとの作品づくりなどオール家島体制で取り組む。移

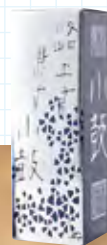
住してきてからずっと島の暮らしの存続を目標に活動が続いている中西さんは、児童数減少による学校の存続を危惧している。家島小学校では、漁師の協力のもと、海水を引き込んだプールにハマチやアジなどを放した魚つかみ体験など、家島ならではの学びを提供している。都会ではなじめなかった子も、家島ではのびのび過ごしているそう。「こんな面白い取り組みをしているのだと地域として発信していきたい」(中西さん)。

写真左) まち歩き中、魚屋さんでタコを触る。中) 大小44の島からなる家島諸島のひとつ、無人島の加島で宝探し。右) いえしまコンシェルジュの中西和也さん。



丹波を味わい、
発酵を学ぶ

西山酒造場



高浜虚子
命名の「小鼓」



俳人高浜虚子命名の日本酒「小鼓」を造る酒蔵。大阪から丹波に嫁いだ女将の西山桃子さんは「こんないい環境が近くにあるなんて、知らなかった！」とカルチャーショックを受ける。お水もお米もおいしくて、採れたての有機野菜もある。厳しくて繊細な仕事をする蔵人へは尊敬の念が絶えない。地域貢献について考える契機となったのは2014年の豪雨災害だった。蔵の中まで土砂が入ったが、連日何十人単位で訪れるボランティアに助けられた。酒造り以外にも地域に恩返しできないか。古い蔵を改修し、丹波の暮らしや発酵に出会える場として、今秋のオープンに向けて準備中だ。プログラムでは、日本酒のペアリングに加え、味噌づくりや塩麴を使った発酵調味料作り、丹波の発酵あずきを使ったおはぎ作りなどを予定。「フィールドパビリオンをきっかけに、ほかの地域で課題に取り組む事業者と出会い勇気づけられた。今後も交流を続けていければ」。

写真上)西山酒造場女将の西山桃子さん。左下)2021年にリニューアルした蔵元直売所。右下)神戸の芸術家・無防庵こと綿貫宏介氏が外観を手がけた酒蔵「天鼓蔵」。



Our Field, Our SDGs MAP

ここで
体験できます！



採石海運業の
島の暮らし

Ieshima Concierge

家島諸島
都市漁村交流
推進協議会

行って直接
体験しよう！



高品質な
靴づくりの現場

Toyooka Kaban

豊岡靴

日本酒と発酵の
文化に触れる

Nishiyama shuzo

西山酒造場

世界に誇る
香りの文化

Awaji Island Koh-Shi Incense

兵庫県
線香協同組合

「HYOGO eスポーツフェスタ in 城崎温泉」大会レポート

兵庫県では、年々注目が高まるeスポーツの、誰もが楽しめるという特性に着目し、地域課題の解決に向けたeスポーツの活用可能性の調査・検討を実施しています。

ゲームが大好きだから
ワクワクしちゃいます！



eスポーツとは「エレクトロニック・スポーツ (Electronic Sports)」の略で、電子機器を用いて行う競技またはスポーツを指す言葉です。国内外で著しい盛り上がりを見せており、日本でも大規模な大会やリーグ戦が開催されています。兵庫県とNTT西日本の主催で歴史ある温泉街城崎温泉を舞台に、「VALORANT」を競技タイトルとして採用したeスポーツイベントが令和4年10月23日(日)に開催さ

れました。近年発展する「eスポーツ」を題材とし、県内観光地と都市部をオンラインでつないだ競技大会や初心者向けの体験企画を実施することで、地域間の交流や観光地への誘客促進につなげることを目的とした実証事業として実施。競技会場となる城崎文芸館の他、駅前すぐの「さとの湯」では、誰でも参加できるeスポーツ体験ブースを設置し、様々な方がeスポーツの魅力に触れることができました。



ZETADIVISION 所属
鈴木ノリアキさん

2012年ごろからeスポーツに触れ始め、Call of Dutyでのプロシーンを作り出した第一人者。

eスポーツはカルチャー自体が新しい。今大会を通じて県外から兵庫県に若い人が集まる事はすごく大事な事だと思う。若い人を呼び込むのに「eスポーツ」が知らない土地を知ってもらえるきっかけになればと思う。



ZETADIVISION 所属
XQQさん

プロプレイヤーとして活動後、専任コーチへと転身、日本eスポーツシーンにおけるコーチの第一人者。

今大会が開催されたことによってたくさんの人が城崎温泉に来る「理由」になればいい。大会に有名ゲストプレイヤーが来て、城崎温泉に行く決め手になってくれれば嬉しい。兵庫県がツールとして使ってくれたことが感慨深い。

HYOGO
eスポーツフェスタ
in 城崎温泉



会場になった城崎温泉ってこんなところ

兵庫県北部の日本海に面した関西有数の温泉街で開湯1300年の歴史があります。城崎は温泉のまちとして、奈良時代から人々に愛され続けてきました。まるで大昔にタイムスリップしたかのようなまち並みを残し、「まち全体が大きな温泉宿」の精神で、今もなお多くの方が訪れる日本の温泉街です。

令和4年度に見直しました

ひょうごビジョン2050の策定やコロナ禍による社会潮流の変化を踏まえ、第2期地域創生戦略(2020～2024)の計画期間の中間年にあたる2022年度に中間見直しを行いました。

第二期(2020～2024)

兵庫県地域創生戦略の全体像

地域創生は、人口が減少しても地域の活力を維持し、そこで暮らす人々が将来への希望を持てる地域を実現することです。第二期戦略では“五国”の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や質の高い暮らしができる地域をつくるという基本理念のもと、地域の元気づくりを第一に、4つの戦略の実現を目指します。

基本理念

五国の多様性を活かし、一人ひとりが望む働き方や 質の高い暮らしが実現できる地域へ

① 地域の元気づくり

ひと・まち・産業元気プログラム

重点目標 1

幅広い産業が元気な兵庫をつくる

- ◆兵庫の強みを活かした産業競争力の強化
- ◆地域産業の振興
- ◆企業立地・投資の促進
- ◆起業・創業の適地ひょうごの実現

重点目標 2

内外との交流が活力を生む兵庫をつくる

- ◆地域資源を活かした交流人口の拡大
- ◆定住人口・関係人口の創出・拡大
- ◆交流を支える交通基盤の充実

重点目標 3

豊かな文化が息づき、安全安心で にぎわいあふれる兵庫をつくる

- ◆芸術文化が身近に感じられる地域づくり
- ◆にぎわいが感じられるまちづくりの推進
- ◆安全安心に暮らせるまちづくり
- ◆防災・減災対策の総合的推進
- ◆次代を担う人材を育成する教育力の強化
- ◆全員活躍社会の構築
- ◆多文化共生社会の実現
- ◆地域生活を維持する革新的技術の普及促進
- ◆豊かな環境の保全と創造

達成度を測る指標

- ① 国を上回る1人当たりの県内総生産(GDP)の伸びを維持する
- ② 「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」と思う人の割合が前年度を上回る

② 社会増対策

社会減ゼロプログラム

重点目標 4

自分らしく働ける 兵庫をつくる

- ◆地元就業の促進
- ◆U/Iターンの促進
- ◆外国人材の活躍推進

達成度を測る指標

- ① 2024年までに日本人社会減ゼロ
- ② 20歳代前半の日本人若者の県内定着率93%
- ③ 5年間で25,000人の外国人の増加

③ 自然増対策 | 子ども・子育て対策

婚姻数拡大プログラム

重点目標 5

結婚から子育てまで 希望が叶う兵庫をつくる

- ◆結婚のきっかけづくり
- ◆安心して子どもを産み育てられる環境の整備
- ◆子育て応援社会の形成

達成度を測る指標

- ① 2024年まで合計特殊出生率1.41を維持
- ② 「結婚したい」という希望をかなえ、
2024年に婚姻数27,000件

④ 自然増対策 | 健康長寿対策

健康寿命延伸プログラム

重点目標 6

生涯元気に活躍できる 兵庫をつくる

- ◆健康づくりの推進
- ◆高齢者等誰もが安心して暮らせる環境整備
- ◆元気高齢者の社会参加の促進

達成度を測る指標

- ① 平均寿命と健康寿命の差を縮める
- ② 運動を継続している人の割合を高める(目標75%)

▶ 第二期戦略策定後の社会潮流の変化や見えてきた課題

地域経済	・播磨地域を中心に、水素利活用の高いポテンシャル ・第3次産業など県内企業の雇用環境の充実が重要
交流人口	・2025大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭の開催、 神戸空港国際化を契機とする国内外との交流回復
多自然地域	・集落機能の低下や産業・雇用の縮小などが深刻化 ・地域課題解決に取り組むスタートアップなどが活躍
外国人材	・高度知識・技能を持つ外国人材の採用意欲が上昇 ・外国人の居住環境等における高い優位性
働き方・生き方	・仕事と生活の調和や、多様な人材が柔軟に働き、 安心して暮らせる環境の整備、意識の醸成が重要

地元就業	・若者の就業ニーズに応じた産業の創出や、働きがい などを重視する若者に魅力的な企業の増加が必要
地方回帰	・コロナ禍により、地方暮らしを希望する人が増加傾向 ・30～40歳代の子育て世代が転入超過に転換
まちづくり	・スポーツチームやイベントが地域への誇りや愛着のきっかけに ・若者の地域愛醸成や地域との交流機会創出が重要
結婚・出産	・コロナ禍の影響もあり、婚姻数や出生数は減少傾向 ・経済面や子育て環境など多面的な取組の充実が必要
児童福祉	・ヤングケアラーなどの支えが必要な子どもや子育て家 庭をめぐる課題に対して、社会全体での支援が必要
学びの環境	・課題解決や価値創造等の新たな能力の育成が重要 ・学校施設の改修など、学びの環境の充実が必要

▶ 後期2カ年の重点取組方針

共通基盤

GROWTH DRIVER

～本県の持続的な成長、発展を牽引するための、全ての取組に通じる共通基盤～

- ◆SDGs：持続可能な社会の実現に向けた世界の共通目標であり、全ての主体の行動指針
- ◆公民連携：社会課題の解決に向け、多様な主体のポテンシャルを活かし合う
- ◆DX(デジタルトランスフォーメーション)：時間の制約や距離の壁を越え、付加価値を高める

3つの柱と主な取組

Frontier

～ポストコロナ社会を先導する～

GXの加速 (グリーン・トランスフォーメーション)

- ・水素サプライチェーンの拠点形成や
蓄電池関連産業の集積促進
- ・中小企業の脱炭素化に向けた
制度構築・支援強化
- ・脱炭素化に向けた制度の構築・普及

2025大阪・関西万博等を見据えた 関西・瀬戸内交流圏の形成

- ・ひょうごフィールドパビリオンの展開
- ・兵庫テロワール旅を基軸とした
兵庫観光のプランディング
- ・兵庫県域の大阪湾ベイエリアの活性化
- ・瀬戸内エリアとの交流促進
- ・神戸空港国際化を見据えた
観光等の戦略的推進

新たな技術や多様なチカラによる 地域課題解決

- ・多自然地域における持続可能な
生活圏形成への支援体制の構築
- ・多様な主体によるスタートアップの
機運醸成、支援強化
- ・包括連携協定や企業版ふるさと納税など
公民連携の取組強化

Return

～地方回帰の流れを捉える～

働き方改革先進県の実現

- ・WLB&DIの促進、ワーケーション、
マルチワークなど多様な働き方の拡大
- ・Z世代の就業志向を踏まえた
企業のSDGsの取組促進
- ・誰もが自分らしく働くことができる
職場づくりの推進

移住施策の強化 (移住推進プロジェクト)

- ・SNS等を活用した情報発信の強化
- ・相談体制の充実(東京圏、大阪における移住
相談体制の強化、移住イベントの実施等)
- ・移住体験の提供(移住者との交流会の実施等)
- ・移住環境の整備(空家活用の促進、若者の
県内就職・定着の促進、奨学金返済支援等)

シビックプライドの醸成

- ・地域に根ざした産業・文化・営みにSDGsの
視点から光を当て、魅力を高める
ひょうごフィールド・パビリオンの展開(再掲)
- ・多様なスポーツや芸術文化等による
地域活性化
- ・地域内外で活躍する起業家等と
若い世代との交流機会の創出

Future

～将来世代への応援を強化する～

結婚・出産・子育て支援の充実

- ・AIマッチングシステムや民間との
連携等による出会い支援の強化
- ・奨学金返済支援等による若者世代の
経済的負担の軽減(再掲)
- ・不妊症・不育症治療が受けやすい
環境整備の推進
- ・家事・育児等に不安を抱える家庭への
支援強化

課題を抱える人への支援強化

- ・家族の世話を日常的に行う
ヤングケアラーへの支援
- ・課題を抱える妊産婦や児童養護施設の
児童、社会的養育経験者等への支援
- ・不登校やひきこもりなどの課題を
抱える人への支援

教育への投資強化

- ・県立学校の施設改修や、
授業・部活動の環境充実
- ・特別支援学校の教育環境の充実
- ・文理横断型の新学科の創設や
国際教育の充実
- ・校務のデジタル化等による
教職員の働き方改革
- ・公立・私立高校における国際教育の充実



誰もが希望を持って生きられる 一人ひとりの可能性が広がる「躍動する兵庫」



／ 五国の多彩な魅力を体感！ ／

次世代につなげる ひょうごの暮らし



多彩な歴史や文化を持つ五国からなる兵庫県。
それぞれの地域で豊かな暮らしを送る人々や、次世代に
繋げるための取り組みを行う人々に会いにいきませんか。

